



- 1 端島集会所で丁寧に説明を行いながら診察を行う谷本医師
- 2 柱島診療所では令和2年から電子カルテを導入し、オンライン診療も行っている
- 3 診察後に待合所で談笑する様子も柱島の風景の1つ
- 4 5代目みしまは入口が両開きとなり、担架を乗せるスペースが確保されている
- 5 定員10人の船室は広々としており、船室前方には横になれるスペースもある

2月11日、柱島地区（柱島・端島・黒島）の患者輸送艇「みしま」が就航しました。

患者輸送艇は柱島地区で救急患者が発生した際、本土の医療機関への搬送のために使用するとともに、月に4回、柱島診療所で診療を行う医療スタッフの輸送を行っています。

今回配備されたみしまは昭和46年の患者輸送艇の導入以来、5代目で、消防用デジタル無線を設置しており、搬送時に本土の救急隊と連絡を取ることがで

柱島地区患者輸送艇 5代目「みしま」就航

きます。先代よりも巡航速度が向上したため、より短時間で搬送できるようになり、緊急時への備えが強化されました。

診療を行った谷本光音医師は「患者さんと対面して診療することは非常に重要。オンライン診療と並行し、離島の医療を支えていきたい」と話しました。

高齢化が進む柱島地区で、島民の健康を支え、緊急時の不安を解消するため、みしまは大きな役割を担っています。

岡地域医療課 ☎(29)5011

島民の命を守る輸送艇新たに

市政 PICK-UP



障害者理解への学習の機会を

3月1日、岩国市障害者サービスセンター内に岩国市手話ときこえの文庫が開設されました。

この文庫は手話や要約筆記などに役立つ書籍や視聴覚教材などを収集し、多くの人に学習の機会を提供することを目的に開設されたもので、市民や医療・福祉・教育団体などが利用できます。

文庫の開設により、手話の普及や聞こえの支援に関する理解を促し、手話通訳者、要約筆記者など聴覚障害者支援を行う人



文庫の書籍やCD、DVDは各3点まで2週間借りることができる

手話ときこえの文庫を開設

材の育成が期待されます。

文庫には小学生向けのものから手話通訳者や要約筆記者など専門家向けのものまで、180点以上の書籍やCD、DVDが所蔵されており、希望者には貸し出しを行っています。

市では昨年9月に手話言語条例を制定し、手話の普及などの取り組みを進めており、今後も聴覚障害者に対する理解を深め、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指していきます。

障障害者支援課 ☎(29)2522



初回利用の際、身分証を持参し利用券を発行してもらうことで次回以降は手軽に文庫を利用できる

それぞれの目標に向かって



5キロの部とハーフマラソンの部で進行方向を逆にし、スタートを時間差にするなどの感染症対策が取られた



好天に恵まれ、錦帯橋周辺で多くのランナーが爽やかな汗を流した

3月6日、横山河川敷運動広場横の県道をスタート・フィニッシュに「錦帯橋ロードレース大会」が開催されました。

錦帯橋周辺および錦川沿い（横山く岩国く御庄まで）のコースで行われたこの大会は、中学生以上が参加できる5キロの部と高校生以上から参加できるハーフマラソンの部を設け、昨年11月から12月初旬までインターネットで受け付けを行いました。

今年度は、参加資格を市近郊

錦帯橋ロードレース大会

に限定していた前回大会から変更し、広島や岡山などの中国五県に規模を拡大して参加者を募りました。初めてハーフマラソンに挑戦する人や職場仲間、仮装した人など1374人のランナーが参加しました。

前日までの暖かさから大幅に気温が下がった大会当日、参加したランナーは強い風の抵抗を受けながら錦川沿いを駆け抜けました。

☎スポーツ推進課
(29)5103